



特集

# 「小5 統一合判」 中学入試レポート vol. 1

## わが子にとってベストの 進学先を選ぶために！

### 小学生の「5つの進路」から私立中高一貫校を勧める理由

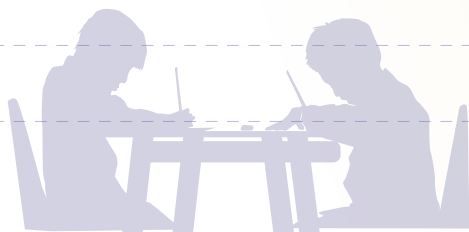
小学5年生にとっては今回が最初となる「統一合判」テスト。はじめての“模試”という生徒も多かったのではないのでしょうか。

今、日本の教育は4年後に控えた「大学入試改革」を節目に、大きな転換期を迎えています。概要などはすでに文部科学省より発表されていますが、実際には不透明な部分も多く、保護者の皆さんも“わが子”の行く末を案じていることでしょう。

こうした変化のなかで、皆さんは“わが子”に合った最良の「学校」を見定め、幸福な未来へと導かなければなりません。

では現在の日本の小学生には一体どのような選択肢が用意されているのでしょうか。

現段階で考えられる「5つの進路」から、その可能性を探るとともに、「多様化する中学入試」と間近に迫った「夏休み」の過ごし方について紹介します。



首都圏模試センター

## 小学生と保護者が選ぶことのできる 卒業後の「5つの進路」について考える

今の保護者が中学へ進学した時代に比べ、現在の小学生の進路はかなり多様化しています。

かつては、学区内の決められた公立中学校に“試験なし”で進学するか、“中学受験”をして私立中学校か国立大学の附属中学校に進学するかという、3つの選択肢でした。

しかし、2000年頃から各地方自治体ごとに進められた「学校選択制」や、1999年からスタートした公立中高一貫校の設置制度により、全国の多くの地域（都道府県や地区町村）では、この二つのタイプを含めた「5つの選択肢」が、卒業時に選べる選択肢となりました。

今回小5「統一合判」テストを受験した、ほとんどの生徒が、中学入学時に入試や適性検査な

どの選抜試験を課す「国立大学附属中学校」か「公立中高一貫校」、そして「私立中高一貫校」のいずれかを目指すものと思われます。ではこの3つの選択肢にはそれぞれどのような違いがあるのでしょうか。

### 国立大学附属中学校

東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城の1都4県（以下、首都圏）には13校の国立大学附属中学校が存在します（2016年4月現在）。多くは国立大学の教育学部に属するものですが、“附属”といってもその大学に優先的に入学できるわけではないので注意が必要です。

●筑波大学附属駒場やいくつかの中等教育学校では、中高6年間を通じた教育を施していますが、なかには併設高校を持たない、あるいは一定の推薦枠しかもたない学校もあるため、高校進学時の受験準備が必要となります。なかには◎東京学芸大学附属（小金井、世田谷、竹早）のように、3校の合計推薦枠（約220名）が決められているケースもあります。

本来、国立大学附属中学校は、大学の“教育研究や教員育成”を目的として設置されました。そのため、在籍する教職員の中には、教科書の執筆や編集などに携わる教員も多く、その教育水準の高さから、毎年安定した人気を維持しています。

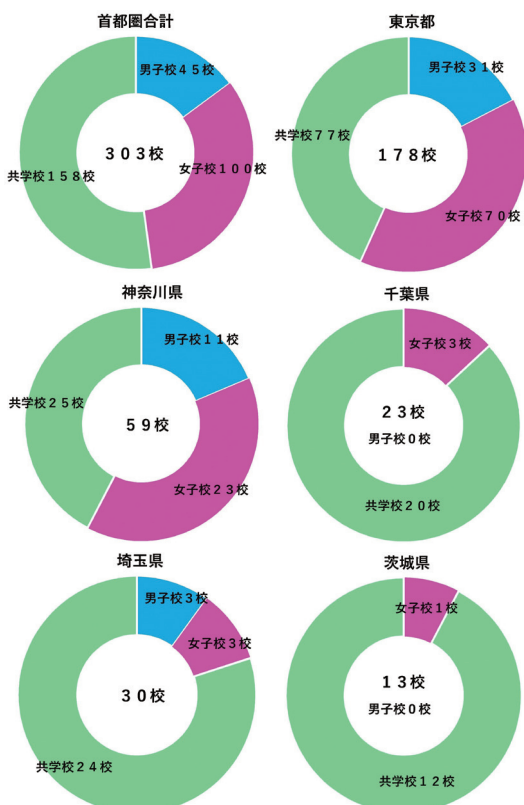
また一般の公立中学と同じく「義務教育校」として扱われるため、中学校の3年間は学費（入学金や授業料）が無償になります。

選抜方法については多くの学校が4科型の入試を採用していますが、◎筑波大学附属中学校のように4科プラス音楽・図工・家庭科を課す学校や◎東京学芸大学附属国際中等教育学校のように外国語と日本語の作文（A方式）か、適性検査Ⅰ・Ⅱ（B方式）を実施する学校もあります。適性検査については◎東京大学教育学部附属中等教育学校でも、すでに導入していますので、今後はこの傾向が広がる可能性があります。

### 公立中高一貫校

公立中高一貫校は、首都圏で計23校（2016年4月現在）が設立されています。

### ☆首都圏の私立中学校数と内訳



※かえつ有明・国学院久我山・自由学園・桐蔭学園・桐光学園の男女別学校は共学校として集計しています

※2017年入試で中学募集を行う学校を集計しています（2016年6月現在）

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、◎=共学校



# 特集 わが子にとってベストの進学先を選ぶために！

小学生の「5つの進路」から私立中高一貫校を勧める理由

6年一貫体制を活かしたカリキュラムと質の高い教育内容、さらには大学進学実績も好調なことから、ここ数年大きな注目を集めています。また、経済的な負担が一般の公立中高と同程度というのも魅力と言えるでしょう。

来春2017年には神奈川県〇横浜市立サイエンスフロンティア高校の附属中学校、2019年にはさいたま市立大宮西高等学校の校地内に、県内では初となる中等教育学校「〇さいたま市立中等教育学校（仮称）」が開校予定です。

公立中高一貫校は大きく分けると次の3タイプに分類されます。

**1. 「中等教育学校」** は中高一貫教育が基本のため、高校からの募集はありません。そのため、6年間を有効に活用した柔軟なカリキュラムを組むことができます。一方で外部からの入学生がないため、やや刺激が少ない面があります。

**2. 「併設型」** は既存する高等学校に、新たに中学校を併設したもので、中学卒業後は入試を受けずに高校に進学することができます。このタイプは高校からも外部募集があるため、互いが刺激を受け合いながら、切磋琢磨できるというメリットがあります。ただし高校からの入学者との間に学力差が生じる場合があり、クラス編成の際の課題となっています。

**3. 「連携型」** は市町村立の中学校と都道府県立の高校が連携している学校で、中学入学時の選抜試験（適性検査）はありません。首都圏以外の地域に多く、高校進学時に簡単な選抜が実施されますが、推薦枠などで優遇されるケースもあります。

**1**か**2**のタイプでは中学入学時に「適性検査」を実施します。通常の国算社理の入試とは異なり、科目の枠を超えた「総合的」な問題が出題されます。傾向としては記述を中心とした「表現力」「思考力」を測る問題の出題が多いと言えるでしょう。この対策として、早い時期からの基礎力の養成はもちろんのこと、日頃から自分で考え発信する習慣を身につけることが必要となります。

2005年の〇都立白鷗高等学校附属中学校の開校以来、多くの志願者を集めてきた公立中高一貫校ですが、ここ数年はやや落ち着いてきました。しかし、2016年に開校した〇千葉県立東葛飾中学校では男女計80名の募集に対して、1157名もの志願者が殺到したように、いまだに多くの学校が高倍率（5～10倍）の人気を維持しています。つまり、公立中高一貫校への進学を考えているご家庭では、多くの受検生が“不合格”になることを念頭に入れた、慎重な「進路選択」が必要となります。



近年、東大などの難関大への進学者が躍進している都立小石川中等教育学校の入試風景。開門前から多くの受検生が来校します。

## 私立中高一貫校

先に述べた「国立大学附属中学校」や「公立中高一貫校」は、設置数が少なく、募集定員も小規模なため、毎年多くの志願者が集まります。また通学区域や応募資格にも、一定の規定があるため、たとえその学校の教育に魅力を感じたとしても、「誰でも受験（受検）できる」わけではありません。

一方の私立中高一貫校は首都圏に303校。他のタイプに比べると圧倒的に設置校数が多いため、広い視野からの学校選択が可能となります。

各校が創立以来の教育理念を持ち、独自のカリキュラムと多彩な授業で、生徒の「学力」と「人間力」を育むのが私立中高一貫校。

毎年、高校別の「東大合格者ランキング」が発表されていますが、その上位も私立中高一貫校が多くを占めます。この大学合格力も心強い限りです。

私学は「男・女・共学」や「校風（宗教系）」

など、さまざまなタイプに分けることができますが、ここでは「大学付属校」と「進学校」についてご紹介します。

**1.大学付属校** は中学から大学までの一貫教育を前提としている学校で、一定の条件をクリアすれば系列の大学に進学することができます。そのため、進学校に比べると大学受験に対するストレスが少なく、生徒たちはゆとりのある学校生活を送ることができます。

しかし、系列大学への内部進学の場合は各校により大きく異なるため、必ずしも全員が進学できるわけではありません。また学部（医学部など）によっては内進枠が少なく（基準が厳しい）、希望学部に進学できないケースもあるので、注意が必要です。

**2.進学校** は併設の大学がなく、大学受験に的を絞った、独自のカリキュラムを組んでいるのが特徴です。学習進度や内容は各校より大きく異なりますが、多くの学校では高2までに高校課程の授業を終え、高3からは大学受験に向けた「演習」が中心となります。

進学校は面倒見が良い学校や自主性を重んじる学校などのさまざまな校風がありますので、お子様のタイプにあった学校選びが必要となります。

**3.半付属校** は大学付属校でありながら、他大学受験にも力を入れている学校で「半進学校」とも呼ばれています。

併設の早稲田大学に約50%の生徒が進学し、東大をはじめとした難関国立大にも多数の合格者を輩出する●早稲田中学校などは、その好例と言えるでしょう。

半付属校には系列大への内部推薦権を保持したまま、他大学受験が可能な学校もあります。近年の国公立大学志向の影響で、一部の難関大付属以外の学校では、このタイプへシフトする学校が増えてきました。

またこの動きとは逆のケースもあります。2017年から「東洋大学グローバルコース」を新



2017年より東洋大学と教育提携する翹町学園女子中学校。

設する●翹町学園女子中学校では、理念を共有する大学と教育提携することで、高大接続の円滑化を目指すことを発表し、注目を集めています。

このように単に「小学生の進路」と言っても、現在の小学生に与えられた選択肢は複数あります。「将来わが子にはどのような大人になってほしいのか」、「なぜ中学受験をするのか」。この機会に、家族でこれからの方向性を話し合い、わが子に合った「進路」を見つけてください。

## 中学入試も多様化の時代へ。 変化する問題と各私学の入試改革に注目！

皆さんが約1年半後に挑む「中学入試」。

よく私立中学の入試問題は、その学校の「顔」と言われています。そこには各校の指導方針やカリキュラムが反映され、「どんな生徒に入学してほしいのか」というメッセージが込められているからです。この入試問題に、ここ数年変化が見えはじめました。

今春2016年の首都圏中学入試の動向として、マスコミや教育関係者が注目したのが、「私立中学入試の多様化」です。従来の国・算・社・理の4科目、もしくは国・算の2科目に加え、新たな入試科目や入試形態を導入する学校が増えてきました。

この動きは、すでに首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城）では23校となった公立中高一貫校の受検生（例年約1万8千名）が、少しでも私立中の併願がしやすいようにという狙いがきっかけでした。

さらには、今後の小学生（＝中学受験生）が当

※本文・コラム文中の、●＝男子校、●＝女子校、○＝共学校



# 特集 わが子にとってベストの進学先を選ぶために！

小学生の「5つの進路」から私立中高一貫校を勧める理由



2017年入試から「マイプレゼンテーション入試」を新設する昭和学院

事者となる「2020年大学入試改革」に象徴される今後の日本の教育の変化に対応し、新たな大学入試と将来の社会で求められる力を育てるための教育をめざす私立中高一貫校の教育姿勢を反映したものであったのです。そこで「入り口」となる中学入試でも「思考力や表現力」を問いたいという私立中側の意図を反映し、なおかつ受験生・保護者へのメッセージとして、この1～2年で急速に、新たな入試形態が増加したと考えてよいでしょう。

その新たな入試形態・科目として、「英語入試」、「思考力入試」、「記述・論述型入試」「総合（合科）型入試」「自己アピール（プレゼンテーション）入試」を実施する動きが目立ってきました。

首都圏模試センターのWebサイト「受験情報ブログ」では、今春2016年入試で「64校が英語（選択）入試を実施」、「86校が適性検査（思考力・PISA）型入試を実施」と、お伝えしましたが、すでに来春2017年入試に向けては、後述のコラムでもご紹介するように、さらに40校近く（6月10日現在調べ）が、新たな入試の導入を公表～検討しています。

こうした新たな入試形態で求められる力や小学生の資質は、先にご紹介した「21世紀型教育（次世代型教育）」や「世界標準（グローバル・スタンダード）の教育」、あるいは「探究型」授業、「学び合い」といった新たな学びのスタイルとフィットする側面もあります。

そうしたことに気づき、中学入試段階では未完であっても、将来的には無限の可能性を持つ小学生を迎え入れ、その資質を育てたいと決意した先進的な私学が、これまでとは違った、新たな

コンセプトの入試形態を新設するようになったのです。

今春2016年入試から新たな入試形態を導入した●共立女子（2/4のC日程入試に「算数+合科型論述テスト」を導入）、●品川女子学院（2/4の第3回入試に「4科目・表現力総合型入試」を導入）、●光塩女子学院（従来は第2回入試に選択で入れていた「総合型入試」を2/1に第1回入試として独立した形で導入）などの人気校もその手ごたえを公表し、（共立女子と光塩女子学院では）次年度にはさらにウエイトを高める入試変更をすでに公表しています。

さらには、今春2016年に「ポテンシャル入試」を新設した●中村中や、「リベラルアーツ入試」を新設した◎宝仙学園共学部理数インターのように、新たなコンセプトを掲げ、従来の中学受験生とは違った（スポーツや習い事などの）小学生時代の活動やさまざまな学習に打ち込んできた、子どもたちの潜在的な資質や能力（＝ポテンシャル）を評価して受け入れようとする形の入試を新設する私学（千葉の◎昭和学院、神奈川の●聖和学院、東京の●東京純心女子など）も少しずつ増えてきました。

こうした動きは、比較的遅い時期から中学受験や私立中高一貫校への進学を志した小学生と保護者にとって、新たな進路の選択肢が増えたという意味で歓迎されています。

こうしたさまざまな動きのなかから、わが子が将来の社会を生き抜くためのヒントをみつけてください。

## いよいよ夏本番！ 5年生にとっての、夏休みの上手な過ごし方！

夏休みは、約40日間もまとまった勉強時間がとれる、中学受験生にとっては大切な時期です。中学受験に挑んだ先輩たちの多くが、あとでその時期を振り返り、「よく頑張ったなあ…」とか「あんなに勉強した時期はほかにはなかった！」と言うように、この夏休みの過ごし方や努力が大きな意味を持つことは間違いありません。

しかし、小学5年生の皆さんにとっての夏休み

は受験勉強以外にも、普段ではできない貴重な体験ができる時期でもあります。せっかくの長期休暇ですから、家族や友だちと一緒に過ごす時間も大切にしたい、スポーツや習い事もこのまま続けたいと思うお子さんも多いはず。そこで課題となるのが「勉強との両立」です。

夏休みを上手に乗り切るコツは「無理な計画を立てない」こと、そして「リズムをつくる」ことです。

もともと大人と子どもでは時間に対する体感速度が異なります。大人は歳を重ねるにつれて月日が経つのを“短く”感じるようになりますが、知識も経験も少ない子どもたちは、我々が考えている以上に、1年を“長く”感じているものです。

あまり意気込んで、「あれも、これも…」と課題を増やし過ぎては、かえって逆効果。小5の今の時期はあまり手を広げ過ぎず、実現可能な課題から、取り組む姿勢が大切です。

夏休みはこれまでに学習してきた「知識」や「技法」を使って演習に取り組み、基礎力を定着させることができる時期でもあります。だからこそ「焦らず」「欲張らず」、**“実現可能な計画”**を立てて、毎日少しずつ達成感を感じられるような学習リズムで過ごすようにしてください。

また、そうした学習計画は、完璧にこなさなけ

ればいけないものではなく、そのときどきの状況によって見直すことも大切です。

この夏休みを効果的に乗り切ることができれば、来年迎える「小6の夏休み」の計画も組みやすくなるはず。この夏休みは、子ども自身が、やる気や日々の達成感を少しでも自分で感じられるようにサポートとしてあげてください。

### 塾の夏期講習で力を伸ばすには？

塾の夏期講習では、さまざまな演習問題に取り組みくことを通じて、これまで学んできたことを「使える力」として定着させることを狙いにしているケースがほとんど。それだけに、夏期講習の開始までに、自分が苦手なところ、不得意なことは何かを明らかにしておきたいところです。そして、塾の夏期講習のテキストや資料を見て、この夏休み前に、いつ、どのような分野・単元を学習するのか、あらかじめつかんでおけば、自分の課題に沿った努力目標や、がんばるべきポイントもわかってきます。

夏期講習の授業では、できれば前日までに、今回はどの単元を学ぶのかを確認したうえで、授業に臨むようにしてください。これまでにその単元や範囲を学んだテキストやノートを見直して、自分が学んだことを思い起こすことができれば準備は万全です。

それは「予習」とは違って、これまでの自分の学びを振り返り、新たな課題に取り組む「気持ち」の準備を整えることにもなります。自分が学習で身につけてきたことや、不足していることを、自分自身の課題として見つけることができるのも、長い夏休みならではのメリットとなります。

また、夏期講習は、多くの場合、問題演習が中心になるため、子どもたちは、自分の解答が「○か、×か？」ということに気をとられがちになります。しかし、大切なことは、そうした問題への取り組みを通して、自分が「どのように考えたのか」、「なぜ、そういう考え方（解き方）を選んだのか」を確認することです。それが基礎・基本を使える力にするためのもっとも確実な学習方法です。

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、○=共学校

小5の夏休みは  
基礎力を固める絶好の機会！  
無理のない学習計画を立てて  
規則正しい  
生活を心がけよう！！





# 特集 わが子にとってベストの進学先を選ぶために！

小学生の「5つの進路」から私立中高一貫校を勧める理由

## 加速する入試の多様化。すでに30校以上が新たな入試を導入！

来春から新設・導入（追加）される新たな入試（6/10現在・首都圏模試センター調べ）は下記のようになっています。2018年入試ではさらに増える可能性がありますので、要チェックです。

### 【新設】（6/10現在28校）

（東京）

- 足立学園 2/1 適性検査型入試
- 大妻中野 2/4 新思考力入試
- 大妻多摩 2/2 プレゼンテーション入試（帰国生・国際生対象）  
2/4 4科または総合型入試
- 麹町学園女子 2/2 定員若干名 Active English 入試（国・算基礎＋英語）
- 佼成学園女子 2/4 自己アピール入試
- 共立女子第二 2/1PM English 4-skills Test
- 女子聖学院 2/2・2/4日本語表現力入試  
2/2 英語表現力入試
- 十文字 2/4 得意型（算or英）特待入試
- 東京家政学院 2/1PM・2/3AM KVA（国・算基礎学力テスト＋面接）入試
- 東京女子学園 2/1 定員20名 1科（英語リスニング・スピーキング）入試
- 東京純心女子 2/4 タラント発見入試
- 桐朋女子 2/2AM 論理的思考力&発想力入試
- 八雲学園 2/2PM 未来発見入試（1科（国・算・英から）と自己表現文）
- 桜美林 2/1 総合学力評価テスト
- 東洋大京北 2/4 「哲学教育」思考・表現力入試
- 明大中野八王子 2/5PM B方式《4科総合型》入試

（神奈川）

- カリタス女子 2/2PM 3科目型（読解・論述＋算数＋理科または英語）入試
- 聖セシリア女子 2/4 B方式（1科目（算または英）＋「読解・表現」）入試
- 清泉女学院 2/1PM 定員25名 2期（2科かグローバル（英語1科））入試
- 聖和学院 2/1・2・5 表現力・総合型入試、プレゼンテーション入試



4月21日に行われた中村中の教育関係者対象説明会で、今春から導入した「ポテシニシャル入試」の手こたえと抱負を語る梅沢辰也前校長。

- 聖園女学院 2/3PM 総合カテスト
- 桐蔭学園 2/4 AL（アクティブラーニング）入試
- 桐光学園 2/4 第3回B試験（「英語資格入試」と「T & M（talent and motivation）入試」）

（千葉）

- 聖徳大附属女子 12/1 定員5名 第一志望B入試（アビリティー）入試
- 和洋国府台 12/1 推薦 国・算基礎学力＋面接もしくは英語・グループワーク入試  
1/24 第2回 2科（国・算）か3科（国・算・英）入試
- 市川 1/20 英語選択入試
- 昭和学院 12/6 第2回推薦「マイプレゼンテーション（作文・プレゼン・面接）入試」  
1/22第2回一般「マイプレゼンテーション（作文・プレゼン・面接）入試」

### 【追加】（6/10現在3校）

- 宝仙学園理数インター 2/4 リベラルアーツ入試II
- 聖学院 2/2 思考力ものづくり入試
- かえつ有明 2/2 思考力入試II

### 【日程・定員・表記などを変更】

- 共立女子 2/4→2/3 定員30→40名 C日程（算数＋合科型論述テスト）
- 光塩女子学院 2/1 定員約15→25名 第1回（総合型）入試（2科基礎と総合）

## 学校説明会では、こんなことがわかる！

～何より私学の熱意と将来性を確かめよう～

毎年、夏休み～秋にかけて、私立・国立中高一貫校では、学校説明会やオープン・キャンパス（学校見学会）、体験授業などのさまざまな行事が催されます。受験生と保護者にとっては「直に学校を知る（見る）」ことができる絶好の機会であり、「学校を選ぶ目」を養う最良の方法です。まだ時間的にゆとりのある小5の時期だからこそ、是非、足を運んでみてください。

とりわけ、「学校説明会」は、各学校の考え方や、具体的な指導内容を知ることができる機会。ここでは簡単にそのポイントをご紹介します。

### ●私学の「説明会」で話される4つの柱

#### 1. 「教育理念・教育方針」と「目標・将来展望」

～保護者の考えや期待と合うかどうか？

#### 2. 「中高6年間の学習指導・カリキュラム」

～わが子の力をどう伸ばしてくれるか？

#### 3. 「入試状況・出題傾向」

～どういった入試が行われるのか、またそこではどういった力が問われるのか？

#### 4. 「進路指導と進路状況（進学実績）」

～将来の進路に向けての指導内容・体制は。またこれまでの進学実績と今後の期待値・目標値は？ そして4年後に迫る「2020年大学入試改革」への対応をどのように考えているかにも注目！

私学の説明会では、一般的にこの4つを軸に話が進められます。いずれも各校の教育内容を見極めるうえでは非常に大切なこと。好印象を受けたことや疑問に思ったことは、しっかりメモに残して、最後に受験校を絞り込むときの参考にしましょう。

そして、これらの話のなかで、いま注目したいのが、「2020年大学入試改革」への対応と、現在の子供たちが社会に出る新たな時代（2025年以降）の社会を各私学がどう読み解き、この日本の教育が変わる節目に、将来に向けてどういった力を生徒に身につけさせ、育てようとしているのかを確かめることです。

ここで、意識しておきたいことは、その話の内容や先生方の姿勢から、その学校の“熱意”や“将来性”を感じ取れるか、ということです。この点は、世間の評価や噂話からではなく、やはり「親が自分自身で確かめる」ことが大切となります。これらの説

明のあとには、「質疑応答・個別相談」や、「校内見学・授業見学」ができるケースもありますので、わからないことはその場で遠慮なく質問するか、あるいは後日、学校や塾に問い合わせ確認しましょう。

また、こうした学校見学の機会を通じて、次のような点も要チェックです。

**1. 受付や先生の対応は親切か？**（学校の体質や先生方の熱意を確認！）

**2. 在校生の服装や言動は？**（学校の雰囲気、生活指導、しつけを確認！）

**3. 施設や設備の充実度は？**（華美でなくとも、生徒本位に工夫された環境かどうか？）

**4. 防災対策（耐震等）や被災時のための備えは？**（いざというときの安全性を確認！）

**5. 学校までの利用交通機関と周辺環境は？**（利便性、安全性を確認！）

とくに4の「防災対策」については、先の震災時の対応なども参考にして、各校の姿勢を確認しましょう。

また、今後の日本の教育の変化を象徴する「SGH（スーパーグローバルハイスクール）」指定校や「SGU（スーパーグローバル大学）」とのつながり、「日本語IB（国際バカロレア）」の導入など、“教育のグローバル化”の動きも加速しています。各私学がどのようなグローバル（国際化）教育をめざしているのか、さらには21世紀型スキルともいわれる「新たな時代に求められる力」を育てていくために、各私学がどのような授業スタイルや教育プログラムを導入しているのにも是非注目してみてください。



桐朋女子中では来春2017年入試から2月2日に記述型の「学力&発想力入試」を新設し、その同校の考えを発信している。

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、○=共学校